

# Sophia English Language Department Alumni Association

## E.L.D.A.A. News

### 上智大学英語学科同窓会会報

発行日：2012年12月25日  
 発行者：田中 真 / 編集者：小笠原 宏司 / レイアウト：鈴木 博文

No.  
54

## 5月27日（日）3号館123教室にて 「オール英語学科の集い」開催される

上智大学のホームカミングディである5月27日（日）、  
「オールソフィアンの集い（ASF）」において、「オール英語学科の集い」を開催いたしました。

「集いのひろば」では、軽食、アルコール類をご用意し、OB・OGが思い出話に花を咲かせる中、吉田研作教授やミルワード先生、更には現役大学生も多数加わり、世代を超えた「輪」が次々につくられ、笑顔で満ちあふれていました。

本年度の特別企画として、吉田研作教授と、書籍や雑誌、新聞の連載を通じて実用英語教育、音読教育の普及に精力的に取り組む安河内哲也氏の講演と対談「“英語を学ぶ”から“英語で学ぶ”へ」が開催されました。これからの日本人に要求される英語力の中身とそれを指導

する立場からの提言が具体的になされ、会場に詰めかけた、出版、学校、塾・予備校関係者を含む217名の参加者の熱気に包まれました。

また、英語学科現役大学生から、Summer Teaching Program(STP)の活動報告がなされ、国内だけでなく、カンボジアでも高い評価を得ることとなった学生の自立的管理によるこのイベントが、益々の成長を進めている状況が伝わり、先輩OB・OGの心にも、熱い感動をもたらしてくれました。

会の最後は、吉田研作先生、鈴木博文さんのギター演奏と歌で締めくくり、また、来年のこの集いでの再会を誓い合いました。



## 英語学科便り

英語学科長 東郷 公徳

2012年も終わろうとしている。前回の会報に書いた英語学科に起こりつつある変化が、僕の予想とは違う形で現実のものとなろうとしている。

最近の出来事から、主なことを3つ報告する。

## 1. 吉田研作教授が英語学科から異動

一般外国語教育センターを専任教員がいて人事権のある組織にする、という長年の願いがついに叶い、この9月21日付で、吉田研作教授は一般外国語教育センターを母体とする新設の上智大学言語教育研究センターの初代センター長に就任し、英語学科の教授ではなくなった。吉田先生の英語学科開講科目はそのまま継続して開講される予定であるし、また研究室も従来通りの場所にある。しかし、もはや吉田先生は学科教授会には出席しないし、入試業務にも参加しない（出来ない）。とても寂しい。吉田先生、長い間、本当にありがとうございました。

## 2. 外国語学部の分裂と新設学部の誕生

2014年度4月をもって国際関係副専攻とアジア文化副専攻が外国語学部から分離独立し別の新設学部（名称未

定）が開設されることになった。更に、2013年度から言語学副専攻の教員は大学院に所属することになった。こちらは大学院における研究・教育を重視する上智大学の方針に沿った改革である。

この外国語学部の改組に際して、英語学科をはじめとする外国語学部に残る6つの学科はそのまま存在し続ける。しかし、外国語学部でもこれを機会に大きな改革を予定している。詳しい内容はまだ公表段階ではないのでここでは書かないが、受験生や学生にとってより魅力的な学部になるべく、皆で知恵を絞っていることだけをお伝えする。

## 3. 英語学科公式サイトの全面更新

11月1日（木）より、英語学科公式サイトが全面更新され、全く新しい形で公開が開始された。質の高いサイトが完成したと自分では感じている。「学科長日記」や学科教員によるリレー・ブログも開設された。卒業生の皆さまにも、是非、一度ご覧戴けたら幸いである。URLは次の通り。

<http://www.info.sophia.ac.jp/engffs/>

## 上智大学創立100周年事業 第2回上智大学全国高校英語弁論大会（ジョン・ニッセル杯）報告

上智大学外国語学部英語学科主催、上智大学、上智大学ソフィア会、上智大学英語学科同窓会、文部科学省などの後援による全国の高校生のための英語弁論大会であるジョン・ニッセル杯の第2回大会が、11月17日土曜日13時から、上智大学2号館17階の国際会議場にて開催されました。185名に上る応募者から原稿と録音による一次審査を通過した20名が本選に出場しました。

昨年に引き続き今回も非常にレベルの高い内容となりましたが、厳正な審査の結果、下記の通り、6名が入賞者として選ばれ表彰されました。

優勝した澤井柚希さん（愛知高校）は“Dream on, You Can Do It”というタイトルで、「夢を叶えたいという強い気持ちがあれば、たとえ困難な状況の下であっても実現できる」というメッセージを込めたスピーチを行い、その強いメッセージ性が審査員から高く評価されました。澤井さんは、「本番では大変緊張してしまいましたが、練習を何度も重ねた甲斐がありました。私を支えてくれた家族、友達、全ての人に対し、感謝の気持ちでいっぱいです」と優勝の喜びを語りました。澤井さんには、ソフィア会から寄贈された優勝カップ、英語学科同窓会から寄贈された楯、表彰状などが授与されました。



### 第1回上智大学全国高校生英語弁論大会（ジョン・ニッセル杯）入賞者

順位	氏名	タイトル	学校名	学年
1位	澤井 柚希	Dream On, You Can Do It	愛知高等学校	2年
2位	ホールドストック絵里花	Breaking Down The Barriers	明光学園高等学校	2年
3位	吉田 葉月	Being True to Yourself	北星学園女子高等学校	3年
4位	稲葉 智志	Crossing Borders	神奈川県立相模原高等学校	2年
5位	小田 真理子	The Joint can bring the change	頌栄女子学院高等学校	3年
6位	田嶋 幸志	What I learned as a volunteer	獨協埼玉高等学校	2年

## 漆原 朗子 (1984年卒業)

北九州市立大学教授・基盤教育センター長

英語学科の先生方、卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

前回ニュースレターに登場させていただきました時はちょうど国立大学が一斉に独法化した2004年度でした。当時私は北九州市立大学という地方公立大学の文学部比較文化学科で言語学と英語を教えながら、教員組合の書記長として、就業規則制定に際しての過半数労働者代表をはじめとする本学の独立行政法人化にかかわる諸手続きや課題に取り組んでおりました。早いものであれから8年、独法化(2005年度)に続き、2006年度には教養教育の責任体制としての基盤教育センターという組織が設置され、私は当初からかかわっていたこともあり、それ以来センター長として全学の教養・語学・情報教育のカリキュラムとその実施に携わってまいりました。

さて、ご承知の通り、日本の大学と大学生をより世界に開かれたものとするべく、文部科学省は2009(平成21)年度に『グローバル30』(上智もその一つ)、2012(平成24)年度には『グローバル人材育成推進事業』を公募しました。北九州市立大学も現副学長が中心となって申請したところ、9月末に採択通知をいただき、それ以来、私も学長指名により副リーダーとして実質的業務運営を任されることとなりました。

おまけに、12月の会議で平成25-26年度教育・研究・国際交流担当副学長に選任されてしまいました。

申請というのは得てして大風呂敷を広げなければ採択されないとはいえ、かかわっていなかった私は申請書を開けてびっくり、根拠もほとんどなく作り上げられた数値目標の高さ(というより無謀さ)に一時は途方に迷いました。

ただ、そうもしてはいられないので、10月以来学内外の様々な方々のご助言やご協力を仰ぎながら、学生の英



語力の向上はもとより、より「グローバル」な視野や思考法の涵養を図る仕組み作りを考えているところです。

その一環として、「グローバル・キャリア教育」を担当する特任教員を公募することとなりました。具体的には、企業・各種団体等で国際的実務経験を経た方に、グローバル化する世界における日本の今後の社会・経済の方向性やそれを牽引するリーダーシップについてご自身の経験をもとに熱く語っていただきたいというものです。詳細は以下のURLをご参照下さい。

[http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=0&id=D112120088&ln\\_jor=0](http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=0&id=D112120088&ln_jor=0)

この件も含め、皆様からのご助言やご示唆をぜひ伺いたく存じます。メールなどいただければ幸いです。

saeko@kitakyu-u.ac.jp

それでは、皆様にとりまして、2012年の締めくくりがよいものでありますように、また麗しのalma mater Sophiaも100周年となる2013年がより実りある年でありますように。Peace on Earth.



1982(昭和57)年卒の石井(川村)紀子です。


ご縁に恵まれてまして本年度(2012年度)4月より母校に戻ってアメリカ史、アメリカ女性史を教えています。恩師丹野真先生の研究室を引き継がせていただきまして、懐かしさと感謝の気持ちでいっぱいです。

男女別クラスで神父様教授が多かった学生時代に比べ、現在は学生も教員も女性が増えており、隔世の観があります。ただ教員と学生の距離が近く、自由闊達に伸び伸びしている英語学科の伝統は健在です。

他大学と同様、これから上智も次の百年へとひとつの過渡期を迎えますが、英語学科の良き伝統を若い世代に無事バトンタッチできるよう、微力ながら尽くして参りたいと思います。



皆様、こんにちは。2000年卒の飯島(旧姓:柴田)真里子です。石井紀子先生と同様、今年4月から母校に戻ってきました。英語学科卒業後イギリスに留学し、ハワイでコーヒー栽培に携わる日系人の歴史についての研究を行い、現在ではライフワークの一つとなっています。ハワイに関する研究をイギリスでしようと思ったきっかけはあまり覚えていないのですが、コーヒーを研究することを通じて、一見関係がないようにみえる両地域の「繋がり」一消費地としてイギリスと栽培地としてのハワイが見えてきました。このように地球規模の繋がりを歴史化する(グローバル・ヒストリー)視点は、イギリスに留学しなければ得られなかったかもしれません。現在、英語学科では、もう一つの研究テーマである「日系人」に関する講義を行っています。戦前に日本から海外に渡った人々の歴史や経験について考えることで、これから世界ではばたいていく外英の後輩たちが世界とどのように「繋がって」生きていくのか、それぞれの答えを見つげるための一助となればと思っています。



SELDAの活動は、会員の皆さんの会費によって成り立っています。SELDAホームページをご参照の上、会費の納入をお願いいたします。

## 母校創立100周年を前に思うこと

SELDAA会長 田中 真

SELDAAの運営を引き受けて、2年目も半ばを過ぎました。その間、多くの出会いに恵まれ、かつ、上智大学および英語学科への貢献も現執行部なりにできたのではないかと考えています。しかし、その一方で、同窓会本来の目的である英語学科卒業生に対する”サービス”という点で機能しているのか疑問です。

また、周囲に聞けば、卒業生同志のつながりは、出身学科ではなく、所属していたクラブや同好会などへの思いによるものが強いようです。同窓会はタテ・ヨコ・ナメに会員を結びつけるもの、ということが私が引き継いだ当時の同窓会活発化のドライバーでした。その目的に向かっていくつかの独自イベントや、他団体によるイ

ベントに対する共催や後援活動を行ってまいりました。

その結果としてSELDAAのプレゼンス向上には一定の効果があったと自負できるものの、それらのイベントに実際に参画した同窓生の数は限られており、これがあるべき姿であるのか、考えて行かねばなりません。また、会費納入状況の低迷も今後の活動計画を考えてゆく中でクリティカルな問題です。

来年は母校創立100周年という輝かしい年を迎えます。ASFに合わせて、我々もいくつかのイベントを実行すべく準備を進めています。卒業以来、母校に足を運ぶ機会がなかった会員の皆さんにはぜひクラスの仲間お誘いあわせの上でSELDAAの部屋に顔を出してください。

懐かしい顔に出会い、忘れていた「あの頃」を思い出すこと間違いなしです。そして、教職員の皆様、卒業生、現役学生を交えて共にSELDAAの未来について語り合える場になることを心より望んでおります。

### 役員のつぶやき

小笠原 宏司 (1979年卒業・副会長)

日本人に要求される英語力・・・、大人しい日本人ですからねえ、もっと自己の考えを前向きに表現する手法としての英語力が必要かも。でも、それは、単に語彙力とか文法や構文の知識量でもないし。選挙の投票用紙に候補者の氏名を全国民が書き込める教育水準の高い日本人だからか、自信がないと躊躇する。表現しながら直す、行動しながら考える、そんなやり方でもきっとわかり合えるでしょ。英語学科同窓会の未来もそんな感じで考えましょうよ、ねえ、皆さん。(オガちゃん)

中村 寛 (1984年卒業・副会長兼事務局長)

公私共に「中国」漬けでした。日米中アジア間の微妙なバランスを求められる時代に、「上智で学んだ英語」以上に「英語学科」で学んだ「上智」を生かす必要性を気付かされた1年。「尖閣問題」等で揺れる我々に、もしあのニッセル先生や○○先生ならどんなコメントをされるかを想像してみるのはいかがでしょう。

鈴木 博文 (1974年卒業・常任委員)

SELDAA常任委員会の中で最長老となってしまうが、まだまだ気持ちを若く保って、やりたいことを大いにやっていきたいと思う今日この頃。来年2013年は、上智大学創立100周年、ソフィア会創設75周年、そして我がSELDAAも設立30周年を迎える大きな節目の年となる。来年1年でさまざまな記念行事が行われるだろうが、SELDAAとしても何らかの存在感を示していきたい。

小泉 究 (1975年卒業・常任委員)

つぶやきの続きである。前回、終身会費の支払いには上智とは縁もゆかりもない家内からの指示であった旨を紹介した。あの「SELDAA新役員のつぶやき」からもう2年、そろそろ折り返しかと思いきや、会則10条によれば、常任委員の任期は、指名した会長の任期に準ずるとのこと。当会の最大行事は総会で、オールソフィアズフェスティバルと併催になるのだが他の行事との関係で出席したことがない。その分、常任委員会では皆勤を目指したい。

夏目 正明 (1977年卒業・常任委員)

創立100周年の2013年をずっと楽しみにしてきました。若かった頃は遠い未来の63歳の自分の姿を想像することができませんでした。年齢を重ねて63歳が目前に近づいてきたのですが、「こんなものなのか、若い時とあまり変わり映えない」と、思うこともありますし、「えっ？こんなに老化してしまったのか」と、思うこともある今日この頃です。

2013年が会員の皆様に良い年になりますように。

鶴岡 容子 (1977年卒業・常任委員)

のんびり、ぼんやり過ごしているうちに年月はあっという間に過ぎますね。周りの皆様はドンドンと進化なさる中、そういう皆様をただ見ている傍観者のような気がします。日々世界は変化していく中、その変化について行くのも難しいことですが、生命体として生かされているこの有限の奇跡のような時を貴重なものと認識して残された時間を充実したものと思いたいです。私の貢献できることを探して生きていきましょう。

笹沼 雅由子 (1999年卒業・常任委員)

来年(2013年)は上智大学創立100周年。上智大学が誕生した1913年はどんな年だったのだろうと、ちょっと調べてみました。丹下健三さん、森繁久彌さんが誕生し、最後の将軍・徳川慶喜が他界。袁世凱率いる中華民国では国民党による革命が失敗に終わり、バルカン半島では戦争が勃発。インドの詩聖タゴールがアジアで初めてノーベル賞を受賞。上智大学が産声をあげた100年前、世界は今よりさらに大きく揺れていたのですね。

藤代 芳正 (1978年卒業・会計監査員)

会社勤めをしながら、SELDAAの会計監査員、所属していた硬式庭球部OB・OG会の幹事、以前勤めていた会社の同窓会幹事、自宅マンションの防災フロア担当と最近いろいろな役回りを引き受けている。一度にひとつしか集中してできなかった自分ですが…。いろいろな方たちとの「出会い」を大切にしたいと考えています。Facebookを始めてもうすぐ2年、「(携帯付き)カメラ」で日常を切り取り続けています。

Sophia English Language Department Alumni Association

E.L.D.A.A. News

上智大学英語学科同窓会会報

No. 54

発行：上智大学英語学科同窓会 〒102-8554東京都千代田区紀尾井町7-1上智大学英語学科事務室気付  
Tel. 03-3238-3719 Fax. 03-3238-3910 URL. <http://www.seldaa.net>